

第2章 子ども・若者の生活習慣と意識・行動

1 基本的な生活習慣

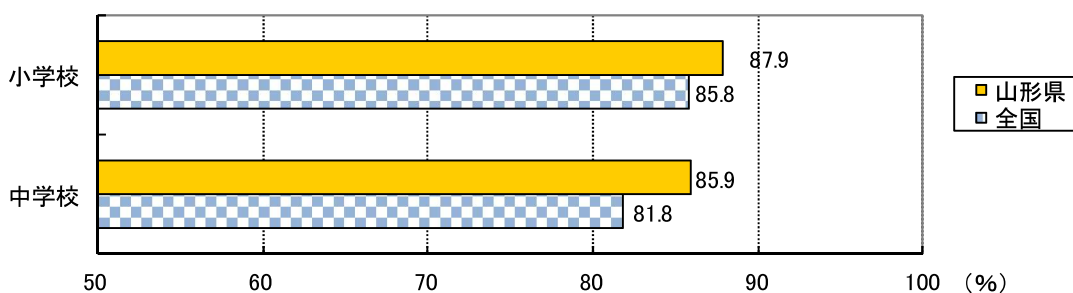
(1) 朝食を毎日食べている児童生徒の割合

「朝食を毎日食べていますか。」の問いに対して、本県の小学生の87.9%、中学生の85.9%が「毎日食べる」と回答しており、全国よりも上回っているが、まだ、朝食を欠食する子どもがいる状況である。

図表2-1 朝食を毎日食べている児童生徒の割合

(単位: %)

調査年度	小学校(公立)		中学校(公立)	
	山形県	全国	山形県	全国
令和3年度	87.9%	85.8%	85.9%	81.8%



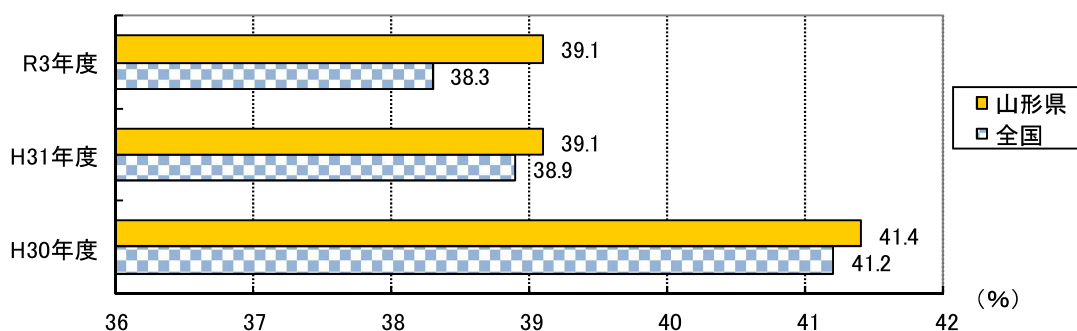
資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

(2) 児童生徒の就寝時間の状況

「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の問いに対して、「寝ている」と答えた児童生徒の割合は、本県の小学生は39.1%、中学生は40.8%で全国よりやや高い割合となっている。

図表2-2 毎日、同じくらいの時刻に就寝する児童生徒の割合

<小学校(公立)>

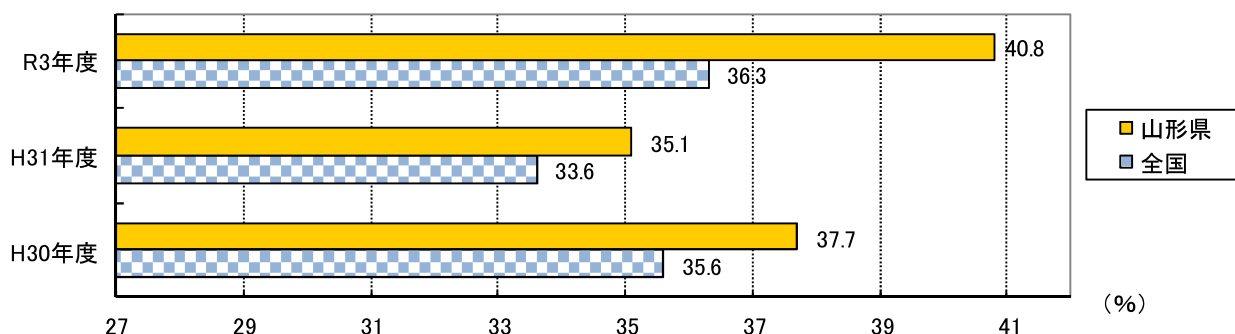


資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

※令和2年度は調査なし。

図表 2-2 毎日、同じくらいの時刻に就寝する児童生徒の割合

< 中学校 (公立) >



資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

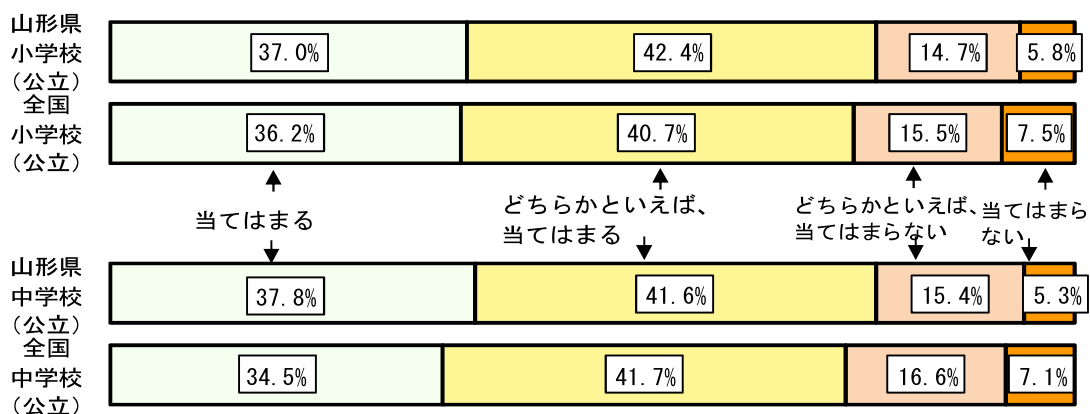
※令和2年度は調査なし。

2 子どもの意識

本県の小中学生とも、自分の良いところや将来の夢や目標があるかという問いに対しての肯定的な回答は、全国平均をやや上回っている。

図表 2-3 子どもの意識 (自分にはよいところがあるか) (令和3年)
(全国・山形県)

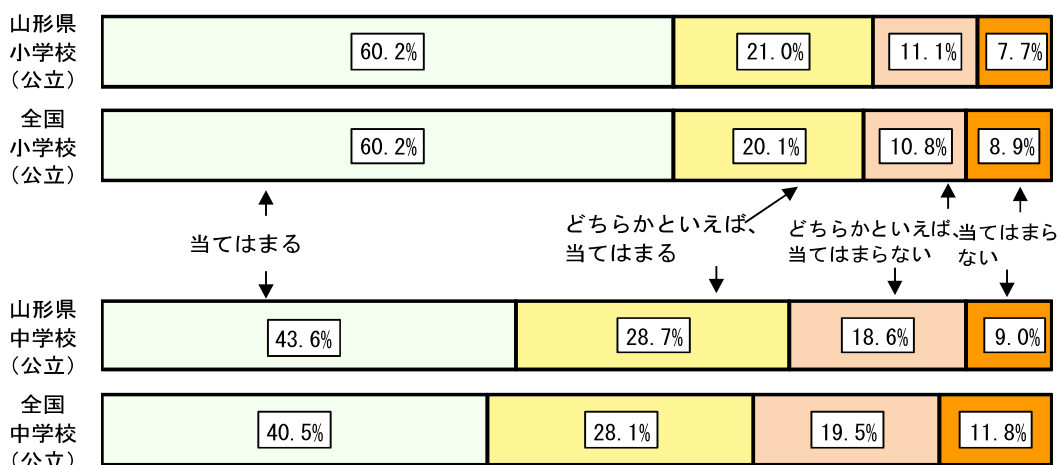
(単位: %)



資料：文部科学省「令和3年度全国学力・学習状況調査」

図表 2-4 子どもの意識 (将来の夢や目標を持っているか) (令和3年)
(全国・山形県)

(単位: %)



3 子ども・若者の行動

(1) 児童生徒によるボランティア活動の状況

本県の児童生徒がボランティア活動に従事する率は、全国平均に比べて高く、今後もボランティア活動へのさらなる参画が望まれる。

図表 2-5 ボランティア活動の行動者率（全国・山形県）

		全国		県	
		男子	女子	男子	女子
平成28年	小学生	25.5	26.1	37.8	32.7
	中学生	24.9	29.0	43.1	47.9
	高校生	18.3	24.4	28.4	34.7
平成23年	小学生	24.4	28.1	42.7	30.1
	中学生	24.2	29.6	61.2	46.9
	高校生	18.5	23.5	25.9	31.8

資料：総務省「社会生活基本調査」

(2) 地域青少年ボランティア活動の状況

本県の地域を拠点とした子ども・若者の自主的な地域青少年ボランティア活動（YYボランティア）は、全国的にも珍しく、多様な活動が見られる。

団体数・人数ともに減少傾向にあることから、子ども・若者がボランティア活動に取り組みやすい環境整備が求められている。

図表 2-6 地域青少年ボランティアサークルの推移（山形県）

（単位：人）

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
団体数	68	115	120	127	114	115
人数	1,042	2,488	2,529	2,705	2,494	2,294

※平成28年度より統計様式を変更。「YYボランティアサークル」と「青年による地域活動団体」を別々に集計したため、これまで統計されていなかった団体も集計されるようになった。

資料：山形県生涯教育・学習振興課

(3) 主な少年団体とその加入状況

少年の自主的な健全育成等に関する主な組織として、ボーイスカウト、ガールスカウト、スポーツ少年団などがある。

図表 2-7 主な少年団体の状況

（単位：団体、人）

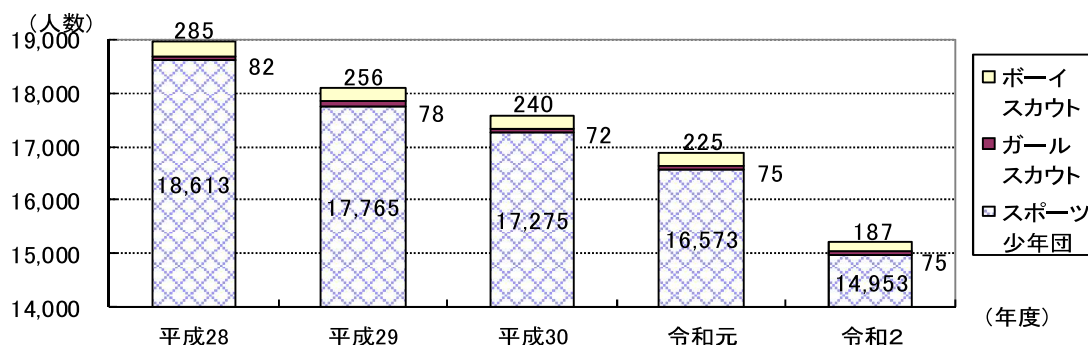
年度		ボーイスカウト	ガールスカウト ※	スポーツ少年団	合計
28	団体数	7	9	927	943
	人数	285	82	18,613	18,980
29	団体数	7	9	912	928
	人数	256	78	17,765	18,099
30	団体数	6	9	908	923
	人数	240	72	17,275	17,587
令和元	団体数	6	9	892	907
	人数	225	76	16,573	16,874
令和2	団体数	6	9	849	864
	人数	187	75	14,953	15,215

資料：「ボーイスカウト、ガールスカウト」は山形県生涯教育・学習振興課

「スポーツ少年団」は日本スポーツ協会HPより

※「ガールスカウト」の人数は少女会員数を記載（就学前1年生から高校生年代まで）

図表 2-8 主な少年団体の加入者の状況



(参考) ボーイスカウト

「世界スカウト機構憲章」に基づき、日本におけるボーイスカウト運動を普及し、その運動を通じて青少年の優れた人格を形成し、かつ国際友愛精神の増進を図り、青少年の健全育成に寄与することを目的とする。

(「(公財) ボーイスカウト日本連盟」HP引用)

ガールスカウト

少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のために責任ある市民として、自ら考え、行動できる人となれるようにする。

(「(公社) ガールスカウト日本連盟」HP引用)

スポーツ少年団

日本スポーツ少年団は、本会の目的に従い、スポーツ少年団の普及と育成及び活動の活発化を図り、青少年にスポーツを振興し、もって青少年の身心の健全な育成に資することを目的とする。

(「(公財) 日本スポーツ協会 日本スポーツ少年団設置規定」HP引用)

(4) 青年の団体・グループとその加入状況

青年の自主的な団体・グループは、青年団や地域青少年ボランティアサークル、勤労青少年グループなどがあり、広範多岐にわたる活動が行われている。

図表 2-9 主な青年の団体・グループの状況

(単位：団体、人)

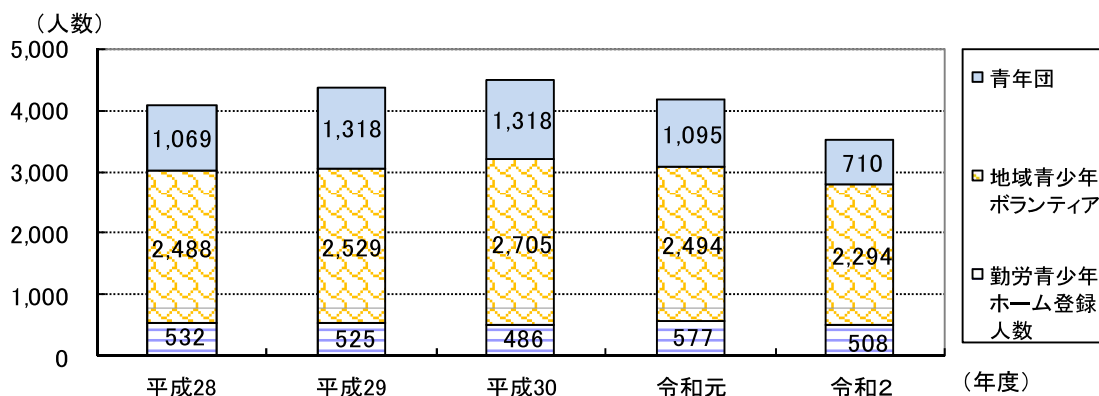
年度	青年団	地域青少年ボランティア	勤労青少年ホーム登録人数	合計	
28	団体数	62	115	5	184
	人数	1,069	2,488	532	4,089
29	団体数	69	120	4	193
	人数	1,318	2,529	525	4,372
30	団体数	66	127	4	197
	人数	1,230	2,705	486	4,421
令和元	団体数	67	114	4	185
	人数	1,095	2,494	577	4,166
令和2	団体数	48	115	3	166
	人数	710	2,294	508	3,512

資料：「青年団」「地域青少年ボランティア」は山形県生涯教育・学習振興課

「勤労青少年ホーム」は山形県雇用対策課

〔「団体数」について、青年団は「市町村数」、勤労青少年ホームは「ホーム数」〕

図表 2-10 主な青年の団体・グループの加入者の状況



資料： 「青年団」「地域青少年ボランティア」は山形県生涯教育・学習振興課
「勤労青少年ホーム」は山形県雇用対策課

(参考)

青年団

町や村など地縁的なつながりを基にした青年団体として組織された。

地域青少年ボランティア

本県における青少年ボランティア活動は、地域単位と学校単位の二本立てで活動。中央センターを「県青年の家」に、地区センターを4地区教育事務所に設置し、青少年ボランティア活動に対する支援を行っている。

勤労青少年ホーム

勤労青少年の様々な相談・指導を行うと共に、余暇の有効活用を支援する事業を行う施設。県内には3市（長井・寒河江・天童）に設置されている。

(5) 地域おこし協力隊の活動状況

本県では令和3年度、各市町村において119名の地域おこし協力隊の方々が地域おこしの支援等の活動に携わっている。

図表2-11 市町村別地域おこし協力隊活動状況

(単位：人)

市町村名	隊員数
米沢市	3
酒田市	4
新庄市	6
寒河江市	2
上山市	7
村山市	6
長井市	7
天童市	2
尾花沢市	2
南陽市	6
中山町	3
河北町	4
西川町	4
朝日町	3
大江町	2
大石田町	6
金山町	2
最上町	4
舟形町	1
真室川町	1
鮭川村	4
戸沢村	1
高畠町	4
川西町	6
小国町	5
白鷹町	6
飯豊町	4
三川町	1
庄内町	8
遊佐町	5

(参考)

○地域おこし協力隊の制度概要：

都市地域から過疎地域等の条件不利地域に住民票を異動し、生活の拠点を移した者を、地方公共団体が「地域おこし協力隊員」として委嘱。隊員は、一定期間、地域に居住して、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PR等の地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組。

○実施主体：地方公共団体

○活動期間：概ね1年以上3年以下

○総務省の支援：

地域おこし協力隊員の活動・起業・募集等に要する経費について、特別交付税による財政支援が行われる。

※1 図表2-11に記載されている隊員数は、総務省の特別交付税による支援措置に基づくもの。

※2 隊員の年齢構成については、20歳代～30歳代の若者を中心に、60歳代までの幅広い世代の方々が活動している。

資料：総務省「地域おこし協力隊の隊員数等について」
(令和3年度特別交付税の対象となったもの)